



写真 アブデュルハミト2世 (左) 皇太子時代の写真、(右) 肖像画

【出典：(左) Yaşamları ve Yapıtlarıyla Osmanlılar Ansiklopedisi, (右) Türkiye Diyanet Vakfı İslam Ansiklopedisi】

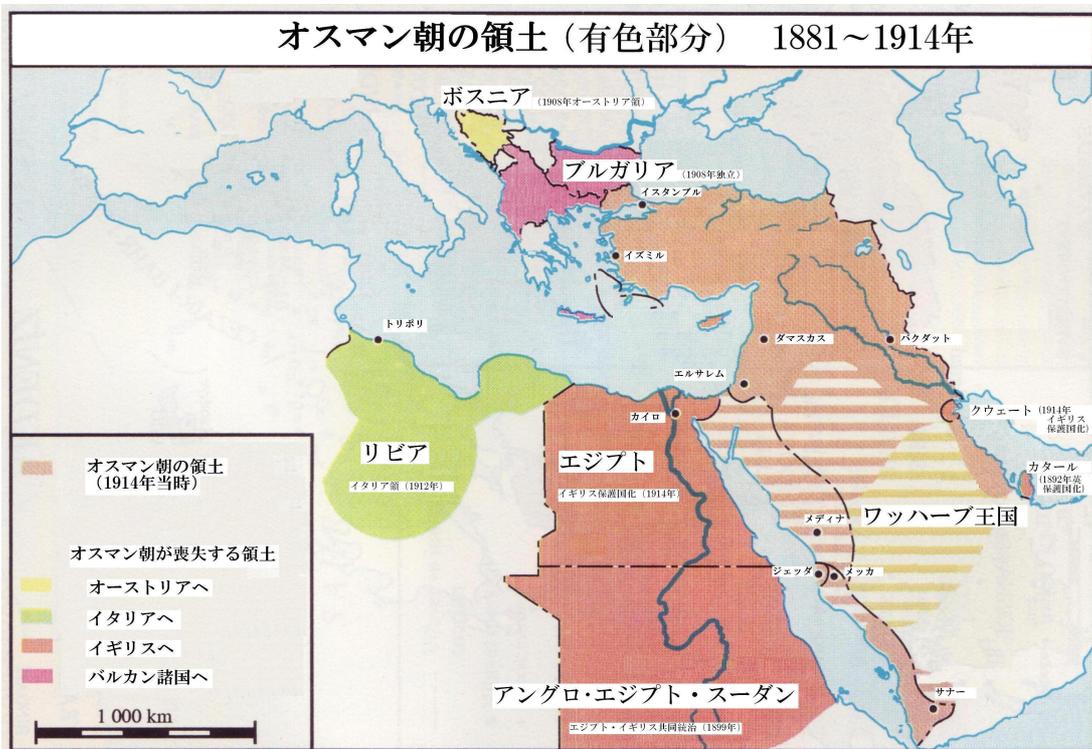


図 1881～1914年のオスマン朝の領土（有色部分）【出典：Tarih Atlası をもとに三沢委員作成】



写真 (左) 明治天皇と昭憲皇太后 (宮内庁蔵)、(右) アブデュルハミト2世に奉呈された大勲位菊花大綬章 (トルコ共和国トプカプ宮殿博物館蔵) 【出典：(左) 『天皇の肖像』、(右) 『日本-トルコ友好史展』】

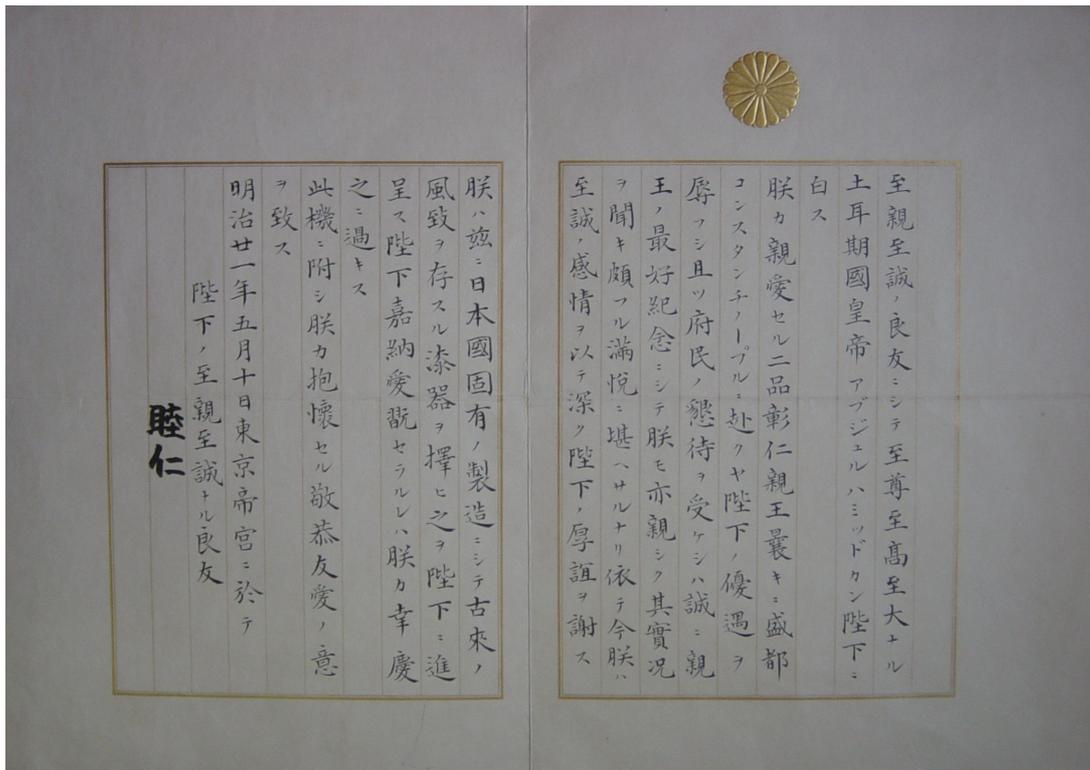


写真 明治天皇の和文礼状 (1888 (明治21) 年5月10日付) 【出典：トルコ共和国総理府古文書総局オスマン文書館Y. EE62-30 番】

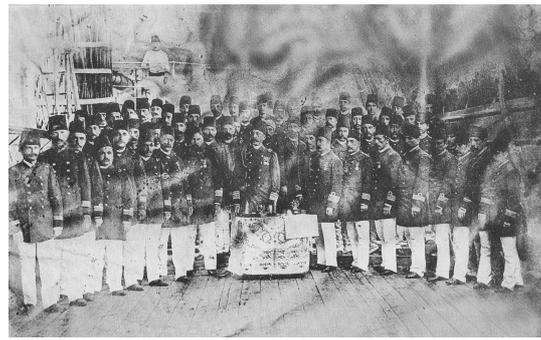
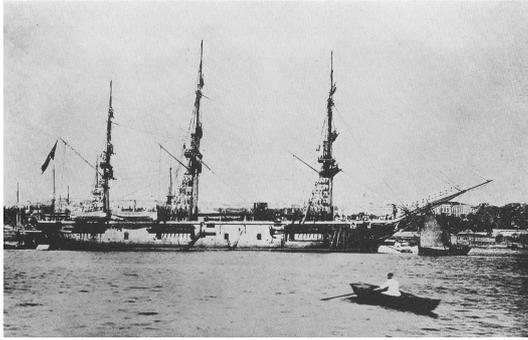


写真 (左) エルトゥールル号、(右) 乗艦幕僚たち【出典：『トルコ軍艦エルトグルル号』】

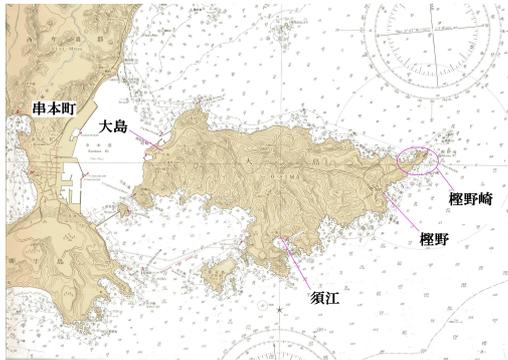


図 (左) 大島周辺の海図 (1958 (昭和 33) 年)【海難審判庁蔵 (ただし一部加筆)】  
写真 (右) 陸側から眺めた大島檜野崎「船甲羅」【2003 年三沢委員撮影】

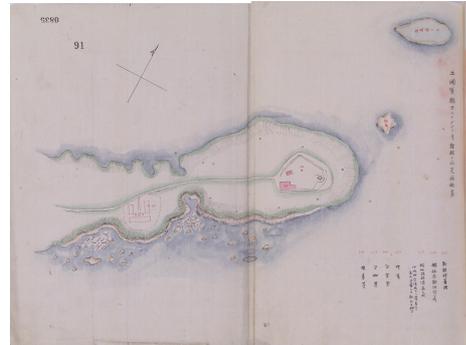
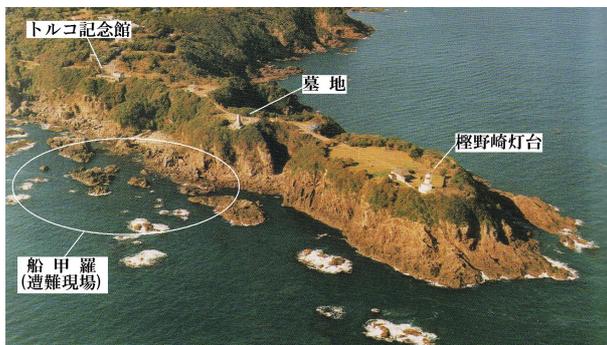


写真 (左) 1987 (昭和 62) 年に空撮された檜野崎 (航空自衛隊蔵)【出典：『トルコ軍艦エルトゥールル号の遭難』 (ただし一部加筆)】  
写真 (右) 和歌山県知事から海軍省宛報告書に付せられた遭難現場図【出典：『海軍公文備考』】

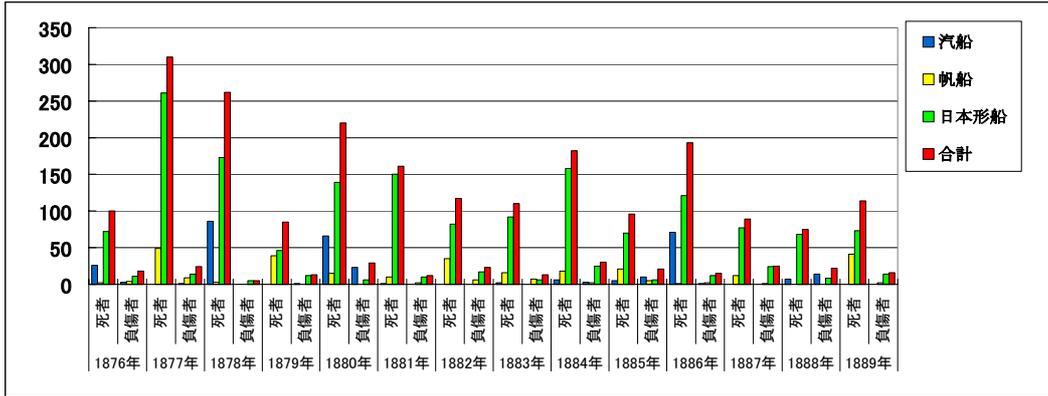


表 1876～1889 (明治9～22) 年における海難犠牲者 (単位:人) 【出典:『時事新報』2790号 (1890 (明治23) 年9月27日) をもとに三沢委員作成】

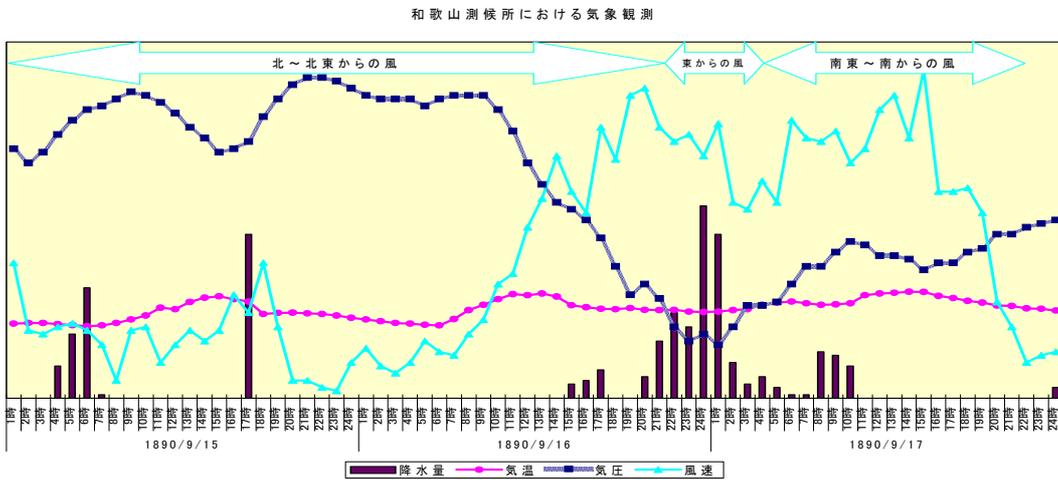


写真 和歌山県測候所における9月15日から17日までの1時間ごとの観測値 【気象庁資料をもとに作成】



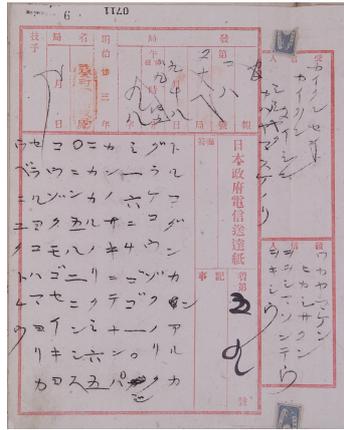
写真 (左) 1890 (明治23) 年9月16日の天気図 【提供: 気象庁】



図 (左) 和歌山県の行政区分図 (1888 (明治21) 年) 【出典:『和歌山縣管内地誌略』】



図 (右) 兵庫・神戸周辺地図 (1885～1886 (明治18～19) 年) 【出典:『地図で見る百年前の日本』】



写真(左) 大島村村長の沖周、(右) 沖村長の海軍省宛電報【出典：(左)『大東』第4巻9号、(右)『海軍公文備考』】

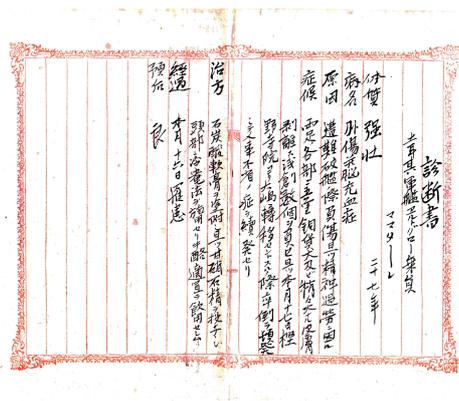
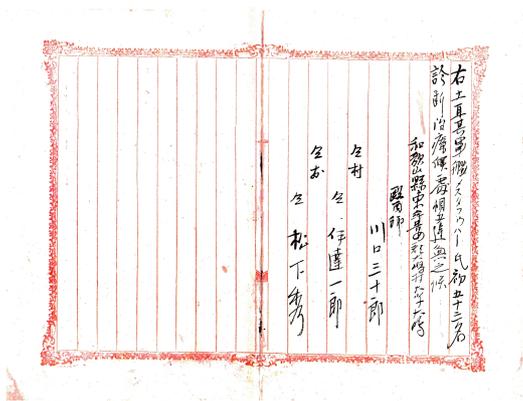
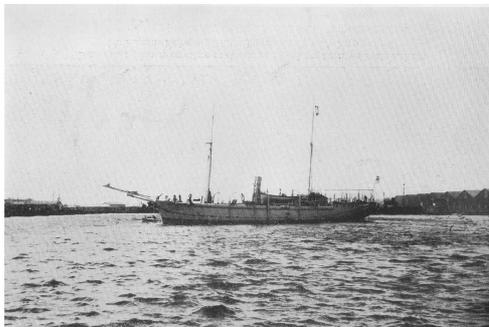
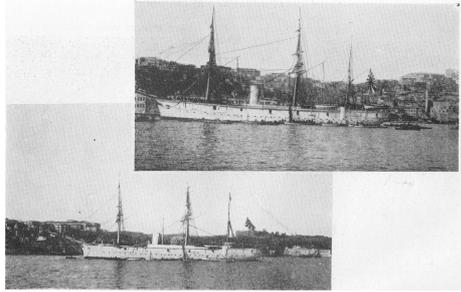
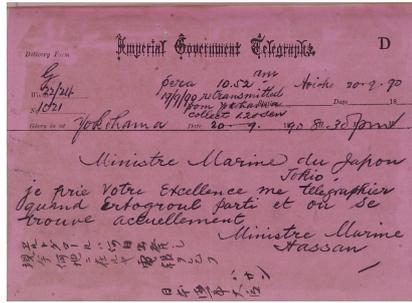
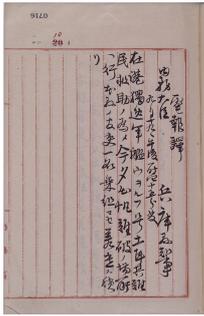


写真 大島村において作成された診断書の一例【トルコ記念館蔵】



写真(左) ウォルフ号、(右) 和田岬消毒所内停留所における生存者たち【出典：『トルコ 土耳其國軍艦エルトグルル號』】



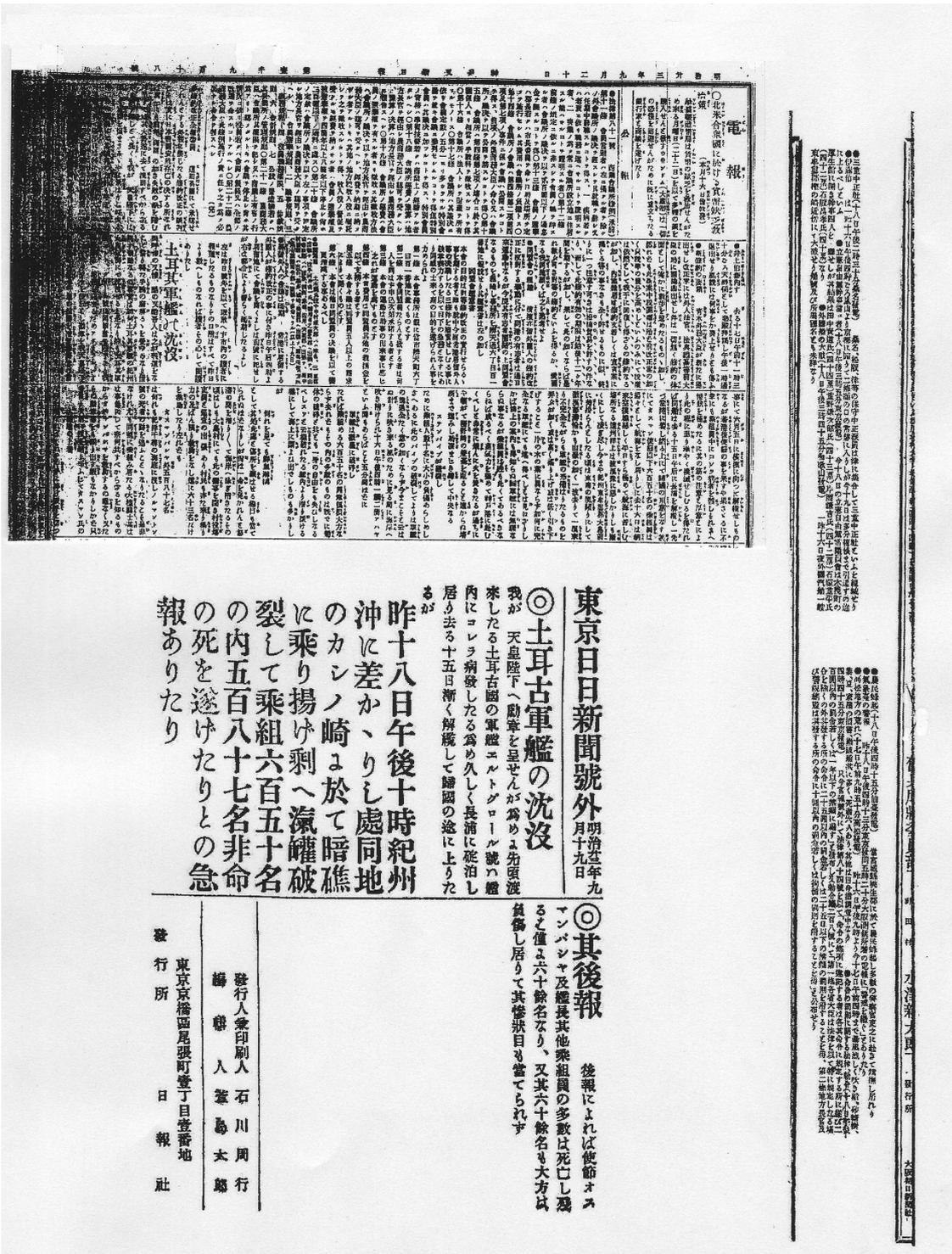
写真(左) 兵庫県知事から内務大臣宛電報の訳文写し、(中) オスマン朝海軍省から海軍省宛の電報【出典：『海軍公文備考』】  
 写真(右) イスタンブルにおける比叡(上)と金剛(下)【出典：『土<sup>トルコ</sup>古<sup>トルコ</sup>軍艦エルトグロール遭難追悼記』】



写真(左) 派遣・駐在記者の野田正太郎、(右) イスタンブルの士官学校における野田正太郎(前列左から2人目)と山田寅次郎(前列左から3人目)【出典：(左) 野田家伝来、現・トルコ記念館蔵、(右) 『日本-トルコ友好史展』】



写真 滞在時にオスマン朝の新聞メディアに紹介される野田正太郎【出典：(左) Musavver Cihan, 21, 12/Haziran/R. 1307 (=1891年6月24日)、(右) Resimli Gazete, 1. sene 14, 13/Haziran/R. 1307 (=1891年6月25日)】



**東京日日新聞號外明治廿三年九月十九日**  
**◎土耳古軍艦の沈没**

我が天皇陛下(勳章を呈せんが爲め)先頭渡來したる土耳古國の軍艦「ムルトグロール」號の艦内にコレラ病發したる爲め久しく長浦に碇泊し居り去る十五日漸く解纜して歸國の途に上りたるが

**昨十八日午後十時紀州沖に差か、りし處同地のカンノ崎に於て暗礁に乗り揚げ剩へ汽罐破裂して乗組六百五十名の内五百八十七名非命の死を遂げたりとの急報ありたり**

**◎其後報** 後報によれば使節オスマンパシヤ及艦長其他乗組員の多數は死亡し残るる僅に六十餘名なり、又其六十餘名も大方は負傷し居りて其慘狀目も當てられず

發行人兼印刷人 石川 周行  
編輯 人 峯島 太郎  
發行所 東京橋區尾張町壹丁目番地  
日 報 社

写真 「エルトゥールル号事件」第一報を知らせる新聞・新聞号外【出典：(左上)『神戸又新日報』1918号(1890〈明治23〉年9月20日)第2面〈部分〉、(左下)『東京日日新聞』号外(1890〈明治23〉年9月19日)、(右)『大阪朝日新聞』3483号(1890〈明治23〉年9月19日)欄外記事】

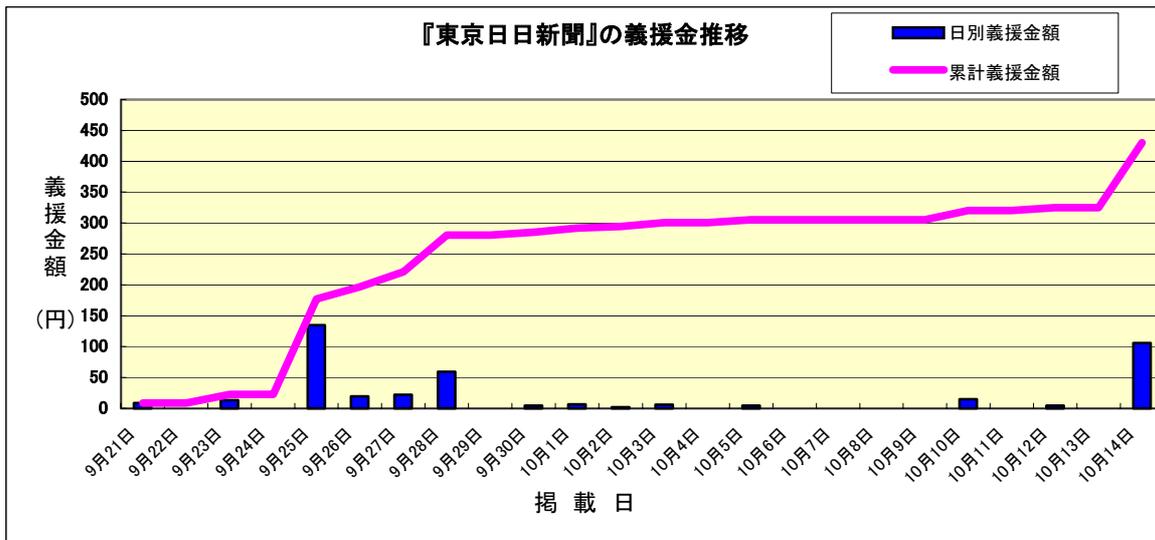


図 『東京日日新聞』の義援金推移【三沢委員作成】

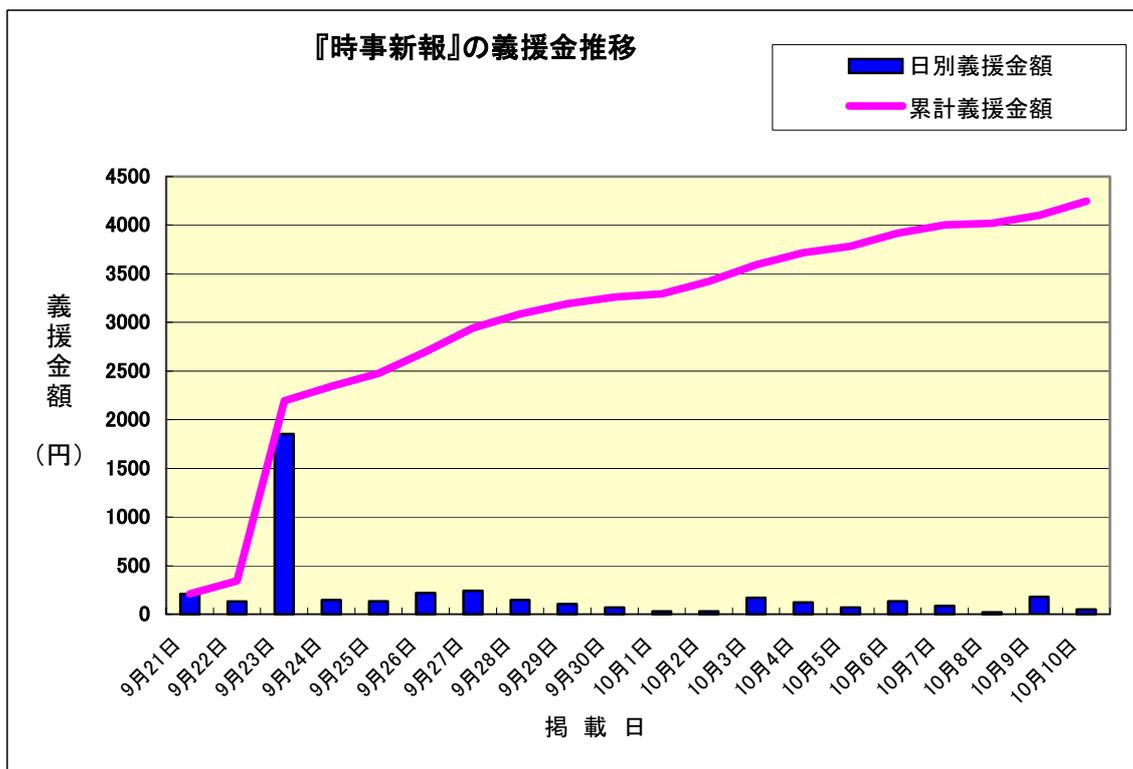


図 『時事新報』の義援金の推移【三沢委員作成】

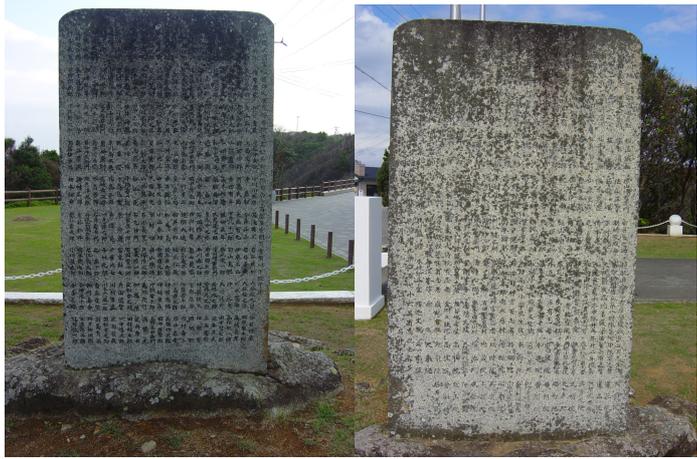
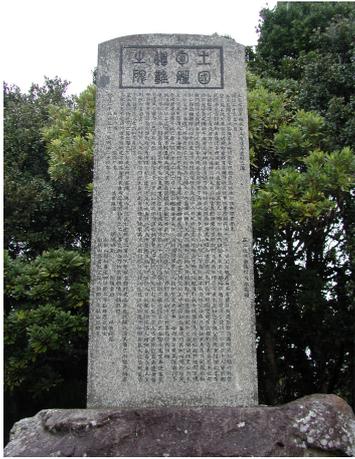
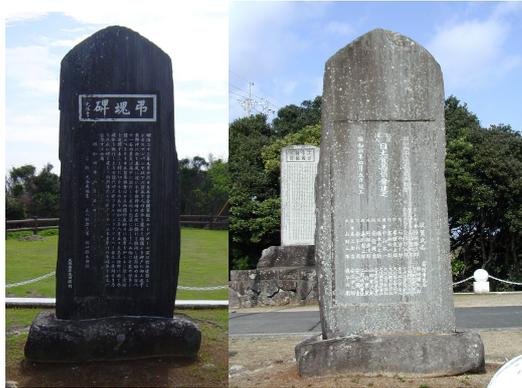


写真 (左) 慰霊碑 (遭難之碑)、(右) 慰霊碑建立献金者碑 (表・裏) 【2003 年三沢委員撮影】



(左) 写真 改築中の新墓碑 (弔魂碑)、(右) 写真 追悼碑 (弔魂碑) 【出典：(左) トルコ記念館蔵、(右) 2003 年三沢委員撮影】



写真 (左) 新墓碑 (弔魂碑)、(右) 改築された墓地 【2003 年三沢委員撮影】



写真 (左) 檜野崎のトルコ記念館外観、(右) 同館内展示物【出典：(左)『日本-トルコ友好史展』、(右) 2003年三沢委員撮影】



写真 (左) トルコ共和国イスタンブールの海事博物館の正面玄関、(右) 同館内エルトゥールル号関連展示コーナー【2004年三沢委員撮影】

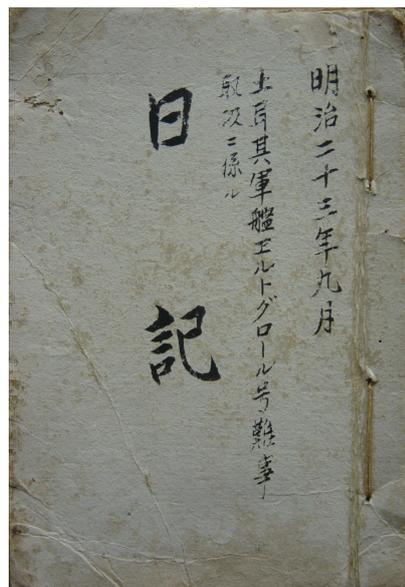
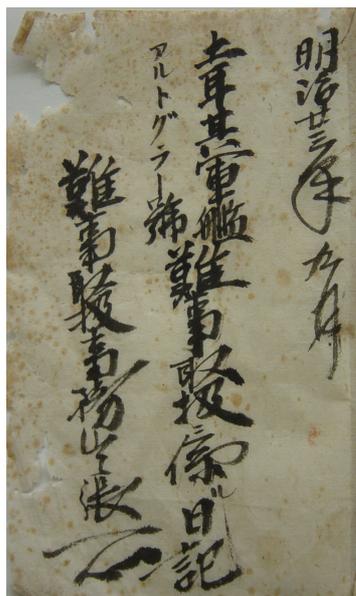


写真 『沖日記』(右) 外表紙・(左) 内表紙【トルコ記念館蔵】